

北海道トレセンU-15秋季交流大会 Technical Report 2020

道北ブロックトレセンU-15

日時
2020年10月31日

会場
東雁来公園人工芝サッカー場

・監督 柴田 晃宏
・コーチ 西崎 雅俊
花田 倅基
・選手 藤田 翔夢
山本 健人
庄子 羽琉
千葉 純
渡辺 悠斗
中山 煌斗
白田 成那
河村 拓弥
岡本染太朗
米澤 友
黒川 颯天
今村 涼介
成田 悠人
片岡 駿太
堀 耶真人
水口 海斗

大会結果

	道北	道央	札幌	道南	道東	勝点	得失点差	順位
道北		○ 3-0	○ 3-2	○ 2-0		9	6	1
道央	× 0-3		× 0-3		× 2-3	0	-7	4
札幌	× 2-3	○ 3-0		○ 6-0	△ 1-1	7	消化試合数が多い	3
道南	× 0-2		× 0-6		× 1-2	0	-9	5
道東		○ 3-2	△ 1-1	○ 2-1		7	2	2

10月31日(土)

- ・第1試合 vs 道南トレセン (2-0) 得点: 渡辺, 庄子
- ・第2試合 vs 札幌トレセン (3-2) 得点: 白田, 片岡, 渡辺
- ・第3試合 vs 道央トレセン (3-0) 得点: 庄子2, 白田

【結果】5チーム中1位

(大会レギュレーションは変則のリーグ戦方式で試合数は異なりますが、結果は**1位(全道優勝)**となりました。)

大会レギュレーション

例年は、予選リーグ・順位決定リーグ方式の2日日程で行っているが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から1日日程となり、試合時間を短くして行われた。

- ・試合時間は40分(20分-5分-20分)

ゲーム総括

リーグ戦3戦全勝の全体1位で大会を終えた。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から夏のブロックトレセンキャンプ等が中止となり、この日が今年度初のブロックトレセンとしての活動となった。試合前のアップでは、選手同士のコミュニケーションが少なく、多少ぎこちなさや堅さが見受けられ、グループとして闘う姿勢があまり感じられなかった。

しかし、試合を重ねるごとに、徐々にゲームや仲間の動きにも慣れてきて、主導権を握るためのポゼッションや個人・グループでボールを奪う意識、試合の勝敗を左右するゴール前の質で相手を上回る場面を数多く作り出すことができた。

特に札幌戦では、先制後に相手に主導権を握られ逆転を許すが、高い位置から個人でボールを奪いにいくことを複数人が連携・連続して行うことで相手にプレッシャーをかけ続け、意図的にボールを奪ってからのカウンターにつなげることができた。また、数的優位を利用してボールを相手コートへ運び、FWへのくさびを意識させることで相手を中央に集結させ、意図的にサイドを攻略してゴールを奪うなど、優先順位を意識した攻撃から終了間際に勝ち越し点を決め、見事に勝利した。

技術・戦術的分析（成果・課題）

【成果】

<攻撃>自分たちからボールを保持しながら厚みを持って仕掛けていくことを意識し、FWへのくさびのパスから3人目の動きでSMFやSB、ボランチの選手が味方の選手を追い越して相手の背後のスペースを突く効果的な前線の崩しからゴールを奪うシーンが見られた。GKが積極的にビルドアップに関わり、安定したポゼッションからコンビネーションや効果的にワンタッチパスを使いながら中央やサイド攻撃でチャンスを作り出すことができた。

<守備>守備の目的「ボールを奪う」「ゴールを守る」を意識してプレーすることができた。前線から個人で積極的にボールを奪いに行くことを複数人が連続して高いインテンシティで行うことによって、相手へのプレッシャーとなりボールを意図的に奪うことができた。ゴール前の守備では、CBを中心に相手の突破やシュートに対し体を張って粘り強く対応することができた。

【課題】

<攻撃>受ける前に、自分の状況を確認し、周りの状況を把握しておくことができていなくて、判断ミスや技術ミスによって、ボールをロストする選手

が見られた。また、ハイプレッシャーでの止める・蹴るの基本の徹底、相手を観て選択肢を持ちながら判断、プレーを選ぶことの重要性を感じた。

<守備>守備における個人戦術の理解が不足している選手が見られた。後ろ向きの相手を簡単に振り向かせない、マークする相手の足下に入ったら寄せるなど、対応ができていなかった。また、ボール保持者の持ち方や状況で、常に一人一人が自分のマークのみならず、スペースを守るのか人に行くのかを自分たちで判断していけるように意識しなければならない。そのためには、前後左右の選手との距離感やスペースの認知、相手の優先順位を理解し選手同士でコミュニケーションを取り意図的に奪う意識が必要となる。

【まとめ】

今大会は、チームとしての完成度よりも個の特徴を最大限に引き出して勝負にこだわって戦った。選手は試合を重ねるごとに少しずつ変化していき、自分たちから主導権を握りながら攻撃を展開するなど成長していったと感じる。結果として、2年ぶりの1位という好成績を収めることができた。

一方で、選手の様子を見ていて、自分から自発的に行動し、周りの選手と関わりながらピッチ内でも外でも行動できる選手が少ないと感じた。ピッチ内では積極的に意図的に攻守においてプレーすること、そして、相手に応じてプレーできるような、さらに良い選手へ成長することを期待している。

最後に・・・

コロナ禍にも関わらず、今大会に快く選手を派遣していただきましたチーム指導者の皆様、保護者の皆様には大変感謝しております。この経験を選手及び指導者の皆様と共有し、今後もトレセン活動に取り組んでいきたいと思っております。ありがとうございました。